

飛鳥資料館 写真教室の開催

飛鳥資料館の写真コンテストは、今夏、5回目を迎え、『飛鳥の甕』をテーマに、75名の方から過去最多213点の応募をいただきました。毎回、写真コンテストでは、総評や表彰式での講評を通して作品のレベルアップにつながるようなコメントをお伝えしています。応募者からの「もっと詳しく聞きたい」という声にお応えして、企画調整部写真室の職員を講師として、写真教室を初めて開催しました。

7月25日開催の第1回のテーマは「デジタル写真のパソコン仕上げ術」。まずは、写真の基礎知識として、画素数に惑わされないデジタルカメラの選びかた、デジタルカメラのデータ記録方式、正確な色を表現するための注意点、さらには、写真の構図について説明しました。もちろん、どのような作品に仕上げていくのも個人の自由な表現なのですが、写真としては正確な色味の再現をめざすことが基本です。奈良文化財研究所らしく、各地の発掘現場や出土品を撮影した写真を用いて、説明しました。

次に、実技のコーナーでは、パソコンで受講者が撮影した写真の色味やコントラストを調整して、表現がどのように変わるか試してみました。真っ黒だった影の部分から見えていなかった被写体が現れたり、花の色味がはっきりしたり、空が美しく見えたり……写真の仕上がりの変化に感心する受講者の姿が印象的でした。教室には質問が飛び交い、予定していた時間を過ぎても、皆さん熱心にパソコンと向き合っていました。

受講者からは、今後も写真教室を開催してほしい、もっと実技を受けたいといった感想が聞かれました。飛鳥資料館では、これからも、さまざまなイベントの開催を予定しています。どうぞご期待ください。
(飛鳥資料館 西田 紀子)



写真教室の会場の様子